

平成23年度私立学校初任者研修 中部地区静岡・山梨県研修会実施報告

本年度の私立学校初任者研修静岡・山梨県研修会が、8月17日（水）から18日の2日間、静岡県裾野市の富士教育研修所で開催された。参加者は、静岡・山梨両県から84名であった。

まず初めに、静岡県私学協会会長であり聖隷学園理事長の長谷川 了氏による講演「出会いと感化」で、この研修会は幕を開けた。

人は人と出会うことで、人生が開ける。その人生を変えた劇的な出会い。これから教師生活を始める若者への講演として、迫力をもって語られた事例は、受講者の心に響いたことであろう。

続いて、当研究所の山崎吉朗専任研究員の講義「効果的な学習指導」では、ICTの活用や新しい学力についてなど、多岐にわたる内容だった。スクリーンには膨大な資料が次々に映し出され、初任者たちは熱心にノートを取っていた。



今回は学校にある演劇性についても学んだ。演劇性があることを意識するかどうかで、学校の日々の活動が大きく変わってくる。

そんな狙いをもった研修が、静岡県舞台芸術センター文芸部スタッフ、大岡 淳氏を迎えての「他者と向き合うための教育演劇」であった。

ひとまず受講者一同、動きやすい服装に着替え、発声方や美しい姿勢や歩き方についての実習を行った。教員にとって、声を出すことは、業務上のスキルとして極めて重要である。受講者たちは「腹から声を出す」ことを実践し、そのことを実感したようだ。

その後、2人の俳優による朗読劇が行われた。演出家が登場人物の役割を変えていくことで、同じ台詞でも全く違う劇になっていく。受講者は楽しみながら朗読劇を見ていたが、同じ事は学校ではいつでも起きている。学校にはたくさんの演劇性が潜んでいるということを受講者は学んだことだろう。



翌、研修2日目。この日はまず向上高等学校・自修館中等教育学校前校長である清水秀樹氏による講義「明日に役立つ生徒指導」が行われた。問題行動を起こす生徒への対応は、いつの時代でも教師達を悩まし続ける。そんな教育現場での実践的な事例への対応例を示され、受講者たちは熱心に聞き入っていた。

午後からは教科ごとに分かれての分科会であった。教科指導や生徒指導についての日頃の教室での悩みやトラブルについて、熱心に意見交換がなされ、時のたつのも忘れて話し合いが続けられていた。

充実した内容に、2日間があっという間に過ぎ、富士山の麓の広大な自然の中、合宿研修を終えた初任者たちは、充実した表情で研修会場を去っていった。

(高山博通)